（別紙８）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成　20年　12月　28日

【評価実施概要】

事業所番号	０１７５８００２９１		
法人名	特定非営利活動法人　ほのか会		
事業所名	グループホーム　おおきな家		
所在地	夕張郡長沼町西町１丁目３番地２０号 電話：　０１２３－８８－１６１０		
評価機関名	株式会社　社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南３条東２丁目１		
訪問調査日	平成20年12月22日	評価確定日	平成21年1月6日

【情報提供票より】（　平成２０年　１１月　２６日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成　１５年３月２８日		
ユニット数	２ ユニット	利用定員数計　15　人	
職員数	27 人	常勤　4人，　非常勤　23人，　常勤換算　10.1人	

（２）建物概要

建物構造	木造鋼板葺き　造り
	１階建ての　１ 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	18,000　円		その他の経費（月額）	光熱水費：　12,000円 暖房費（12～3）：5,000円
敷　金	有（　円）	無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,300　円			

（４）利用者の概要（　１１月　26日現在　）

利用者人数	15 名	男性　2 名	女性　13 名
要介護１	1　名	要介護２	3 名
要介護３	9　名	要介護４	2 名
要介護５	0　名	要支援２	0 名
年齢　平均	84.2 歳	最低　72 歳	最高　94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	町立長沼病院・士岐歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームおおきな家」は、長沼町の住宅地と広々とした田園地域に囲まれた自然豊かな場所に位置している。運営者は、長年の高齢者福祉への強い思いからNPO法人を設立し、複数の高齢者福祉事業を展開している。当グループホームは、平成１５年に裁縫工場を改築して１ユニットとプレールームとして開設し、翌年には、プレールームを居室に改築して現在の２ユニットにして運営している。開設当初から、利用者のありのままの生活をゆったりと支えるケアを心がけ、地域に根ざしたグループホームとして町との連携も深められている。利用者は、広々とした住居で、明るく自然な姿で笑顔の毎日を送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の改善項目であった契約書への利用者等の権利や義務の掲載はまだ不十分であるが、利用者の趣味に応じた活動意欲を高める工夫やケアプランのアセスメントの充実、事故報告書、ヒヤリハットの記録は整備され、改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は、職員に意見を聞き、管理者と理事長、副理事長でまとめ上げて作成している。殆どの職員が初めての自己評価と言う事で、内容の理解がまだ不十分で評価が十分には活かされていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は、役場福祉課職員、家族代表、町内会役員、管理者、法人役員の参加のもと年２回開催している。夏祭りやクリスマス会に合わせて開催し、地域の人も参加して貰うなど、事業所を理解して貰う良い機会になっているが、定期的な開催には至っていない。今後は、議題の充実と定期的な開催に向けて取り組んでいく予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族が来訪の折りには利用者の様子を話したり、来訪の少ない家族には、随時電話連絡を入れて相談や報告を行っている。意見箱は設置していないが、家族とは、色々な思いや意見を気軽に言って貰える関係が出来ている。家族から出された意見や苦情は職員間で話し合い、申し送りノートに記入して全職員で対応を共有している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入し、子供御輿を応援したり、お札を貰いに行くなど町内のお祭りに参加している。町内会で行う年２回のゴミ拾いの大掃除や花植えなどにも利用者と共に参加している。事業所の夏祭りには、地域の人々が子供連れで遊びに来たり、日常的にも東屋を利用して近隣の人との交流が行われている。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「ゆったりと楽しく」「自由にありのままに」「暮らしの喜びと自信を」という理念を掲げ、利用者中心に地域と関わりながらケアに取り組んでいるが、理念の中に地域密着はまだ明記されていない。	○	理念について全職員で話し合うと共に、運営推進会議の議題として取り上げ、地域との関わりを理念の中に文書かした事業所独自の理念を作成するよう、期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの食堂に、額に入れて掲示すると共に、パンフレットに掲載している。職員の中には、自分で理念を記入した紙を携帯している者もいる。職員会議の中で、「理念の３番目は何かな？」などと聞いたりして、理念を振り返る機会になるように心がけている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、子供御輿を応援したり、お札を貰いに行くなど町内のお祭りに参加している。町内会のゴミ拾い、大掃除、花植えなどにも利用者と共に参加している。事業所の夏祭りには、地域の人々が子供連れで遊びに来たり、日常的に東屋を利用して、近隣の人との交流が行われている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、評価票を職員に見て貰って意見を聞き、管理者と理事長、副理事長でまとめ上げて作成した。殆どの職員が初めての自己評価で、内容の理解が深められるには至っていない。管理者には、自己評価する事で、重大な仕事を任されていると言う責任の重さを感じる機会となった。	○	次回の自己評価は、全職員に評価の意義を説明して理解を深めて貰い、評価に全員で参加し、日々のケアに役立てていけるように、期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、役場福祉課職員、家族代表、町内会役員、管理者、法人役員の参加のもと年２回開催している。夏祭りやクリスマス会に合わせて開催し、地域の人にも参加して貰い、事業所を理解して貰う機会に繋げている。	○	定期的な運営推進会議の開催と、評価や地域の災害援助など議題の充実を図ると共に、記録を保管するように期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の職員が事業所を来訪したり、理事長など法人役員が役場に出向くなど、町役場との連携が深められている。管理者の町役場への訪問はないが、報告書式などで分からない事があると、理事長に頼んで役場で教えて貰う事がある。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者個人の様子を書いた手紙と、請求書を家族に送っている。家族が来訪した時は、利用者の様子を話したり、来訪出来ない家族には、投薬や身体状況の変化が合った時など随時電話連絡を入れて、家族に相談したり、報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置していないが、家族とは来訪の折り、色々な思いや意見を気軽に言って貰える関係が出来ている。家族から出された意見や苦情は職員間で話し合い、申し送りノートに記入して全職員で対応を共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の馴染みの関係を重視しており、系列の事業所間での複数勤務はあるが、基本的に異動は行っていない。退職する時の利用者への挨拶は、それぞれに任せているが、職員の交代により動揺する利用者はいないと感じている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	１～２年の経験後、順番にシルバーサービス振興会の職員初心者ステップアップ講習会に参加出来るようにしているが、年間を通して職員一人当たり１回前後と外部研修参加の機会は少ない状況である。定期的な内部研修は行われていないが、ノロウイルスや予防介護などの講習会後に報告を行う機会を設けて職員間で情報を共有している。	○	今後は、職員のレベルアップのためにも、積極的な外部研修への計画的な参加と、定期的な内部研修等、内容の充実を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、法人内の施設間での交流が主で、他のグループホームとの交流は殆ど行われていない。今後、民間介護事業者協議会での相互訪問や管理者の交流のあるグループホームの見学なども考えているところである。	○	民間介護事業者協議会での相互訪問の計画が実現し、同業者間での勉強会など、サービスの質を向上させる取り組みが行われるよう期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	役所の紹介や法人内のデイサービス利用者が入居するケースが多いが、入居する時は、家族や本人に見学に来て貰い、一緒に体操したりして他の利用者と一緒に過ごす時間を作っている。入居後は、自己紹介をしたり、職員が同じ趣味を持つ利用者との仲立ちをして早く馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	布巾縫いや毛糸のたわし作り、掃除を手伝って貰うなど、利用者と職員は一緒に支え合いながら生活を送っている。利用者に「有難う」「申し訳ないね」などと感謝の言葉を貰う事により、職員は精神的に大きな支えを感じている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は、自分の思いや意向をはっきりと言ってくれたり、職員の問いかけに答えてくれるなど、現在は意向の把握は困難な状況ではない。今後、身体状況の変化により、意向や希望の把握が困難になった時は、利用者の行動や表情で把握して行く予定である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者は、医療情報も参考にし、24時間のアセスメントシートに記入、利用者、家族の意向を聞き、職員の観察も取り入れて計画書を作成している。その後カンファレンスで確認し完成したものを本人に書類で説明し了解を得ている。家族には来訪時に説明している。	○	介護計画の同意を得る書式を作成中なので、本人の同意印、また、来訪の少ない家族には郵送するなどして、介護計画の内容を話し合った上で同意印を得るような工夫に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の観察や個人記録を参考にしてモニタリング表を作成し、それを基にカンファレンスで話し合い３ケ月ごとに見直している。その間に、退院後で状態が変化した時や心身機能の低下から、ケア内容を見直す時には、その支援内容を検討し、新たな計画を作り直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の代行で通院の送迎をしている。点滴やインシュリン注射など、医療処置が必要な時は、職員が付き添って受診し、主治医と話し合いながら入院回避に努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診先を確認しており、７割は町立病院を受診している。数名の利用者は入居前からの、かかりつけ医を継続し脳神経外科病院の専門的な受診もある。受診はホームで同行し主治医と連携する中で一人ひとりが安心して治療が受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関わる方針については、入居の契約時に理事長が口頭で説明をしている。現在、看取りの必要な利用者はいないが、管理者、職員は法人内での看取りの情報を聞いているので、その時点になってから具体的な対応を準備したいと考えている。	○	ホーム指針としての書類を作成し、看取りについても具体的な対応の方針を明記し、入居時に家族と話し合うことを期待したい。それに基づき、家族、主治医、関係者、職員と繰り返し話し合い、方針を共有することも期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には尊敬の念をもって接し、名前を苗字で呼ぶことをホームの指針として言葉遣いにも注意している。職員は排泄の声かけを工夫し、親しさの中にも丁寧な言葉で温かく接している。個人記録等は事務所に保管し、来客簿は職員がノートに記入して把握している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間を中心に、午前中は体操、午後は入浴と大まかな流れはあるが、ゆっくり起床し、朝食を摂る利用者もいる。昼寝、ビデオ鑑賞、塗り絵、ゲーム等などをして過ごし、職員は個人に沿って支援をしているが、元気な人はやりたいことを自分で決めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みは1週間以内には献立に取り入れている。芋の皮むき、盛りつけ等、食事の準備を手伝い、食後は食器下げ、茶碗拭き、食べこぼしを拾うなど、動ける利用者は、何らかの作業に参加している。職員も食卓につき家族のようにテーブルを囲み会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月～金曜日の午後から入浴日となっている。必要な時は、午前中、土、日曜日なども対応は可能である。希望に沿って、最低週2回は実施し、入浴を嫌がる時は一番風呂や温泉浴などの声かけで誘っている。女性利用者には同姓介助を原則にしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事分担の他に、除雪、畑作など、それぞれの役割がある。以前はホーム前にあるパークゴルフ場で楽しんでいたが、心身機能の低下があり現在は散歩をしている。外食や本部に行く職員の車に乗り、ついでにドライブなどの気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園やホーム庭の椅子に座り、近所の人と会話を楽しんでいる。また、隣接している法人の施設利用者と東屋で交流するなど、夏場は毎日のように外に出ている。冬には食材の購入時に利用者も一緒に車に乗り、店舗内でおやつや食材などを選んでいる。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	7時～２０時までは玄関に鍵をかけていない。玄関の出入りに、チャイムがなるので、外に出た時は、危険がないように見守り、様子を見て職員が同行し本人が気が済むように付き合って安全に努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアル、連絡網等は整備されている。避難訓練は消防署の協力のもとに、通報、消火器使用、避難など、利用者も参加し年2回実施している。近隣の協力も得られるように検討中である。	○	災害時に近隣の協力も得られるように、運営推進会議の議題に載せ、実際に地域と一緒に行う夜間を想定した避難訓練の実施にも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては法人の管理栄養士が管理しており、水分量は1,000～1,500ccを目標に記録して把握している。食事は全量摂取が多いので、食事量が少なくなった時は記録して対応するようにしている。	○	毎日、個人の食事量、水分量を記録し、一日を通して必要な量を確認する書類の工夫で、全職員が量の過不足に対応していくことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工場の家屋を全面的に改装した共用空間は広く明るい。居間には鳥かごや観葉植物が置かれ、窓の多い奥まった所で団欒ができるようにソファが置かれている。壁には季節ごとに貼り絵の作品が飾られ、大枠の窓からは自然の移り変わりが眺められる。広い廊下は運動の場所になり、壁は「塗り絵ギャラリー」として、発表の楽しみの場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を中心に改造した居室は、６～１０畳の個室で、それぞれの広さを生かした趣がある。ホームはカーテン、暖簾、収納庫を用意し、利用者は自宅で慣れ親しんだ置き物、ぬいぐるみ、ソファなどの家具類や大きな仏壇などを持ち込んでいる。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。